

今回の「大局観を磨く」も、私が仕事をする上で重要視しているものです。特に、この大局観は、管理職になればなるほど絶対的に必要な能力であると考えています。仮に、管理職が若手職員と同じように、全体を眺めることなく目の前の仕事だけをこなしていたならば、おそらくその部や課は、全く仕事が回らない状況に陥るでしょう。すなわち、俗に言う『鳥の目と虫の目』です。管理職は、大局観である「鳥の眼」と細部も知っている「虫の眼」の両方を持ち合わせなければならないのです。

しかし、この『大局観』は、一朝一夕には身に付くものではなく、大局観、すなわち、全体を見ながら仕事をするという経験を積まない限り、身に付かないと私は考えていますし、それも若いうちに経験するほうが、より身に付きやすいと考えています。であるが故に、私は数年前、各部に総括担当を新設して職員を配置しているわけですが、たとえ総括担当でなくても、本人の日頃の意識次第で大局観は学べると思います。すべては本人の意識次第です。